

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	第27回 西脇市子ども・子育て会議
開催日時	令和6年6月5日（水） 午後1時30分から3時10分まで
開催場所	西脇市役所 委員会室
出席委員の 氏名又は人数	13名
欠席委員の 氏名又は人数	4名
出席職員の職・ 氏名又は人数	事務局12名
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	1名
議事又は 報告事項	1 委員の委嘱・会長選出 2 第2期西脇市子ども・子育て支援事業計画の 進捗及び検証について 3 （仮）西脇市こども計画について 4 その他
会議の記録（概要）	
事務局	<p>○開会 ○福祉部長挨拶 ○委員委嘱・会長選出</p> <p>【議事】 <第2期西脇市子ども・子育て支援事業計画の進捗及び検証について></p> <p>資料 1-1、 1-2、 2 に基づき、事務局から説明</p>
委員	<p>2点伺いたい。資料 1-1について、「あまりできなかった」という評価があるが、その原因がコロナ禍の影響であるならばコロナ収束後に改善される見通しが</p>

	<p>立つ。そして、申請がなかったものについてはニーズがない、または広報不足といった原因が分かる。77番と96番については、評価はあまりできなかつたとあるが、取組内容の備考欄ではネガティブなことが書かれていない。あまりできなかつたという評価が出されているのは、どのような意味での評価なのか分かれば教えていただきたい。</p> <p>もう1点、資料1-2の基本目標2である子どもの社会参加の促進という箇所、それぞれの数字がこの3年のうちに概ね伸びているというのが成果として素晴らしいと思うが、その伸びた要因が何かわかれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>まず資料1-1の77番について。</p> <p>子育てがしやすい仕組み制度の啓発ということで担当課は、あまりできなかつたという評価をしている。様々な媒体を使いながら広報活動や啓発活動をやっているが、国等がやっているいろいろな認証制度もあるが、そういった企業が増えてこないこと、数字としての見えるものが出てきていないということ、それから働きながら子育てしやすいという意見をあまり聞くことができず、あまりできなかつたという評価となっているのかと思う。活動自体はやっているが、それが効果として見えていないというところの評価であると事務局としては考えている。</p>
事務局	<p>資料1-2の子どもに係る指標が上がっているという点について、いくつか要因が考えられるが、地域の参加や将来のイメージについては、コロナ後に「トライやるウィーク」の復活など、地域行事に参加する割合が増えるなど、将来のイメージにつながる活動の地域行事が増えてきたことが考えられる。</p> <p>また、自分には良いところがあるというところについては、本市はスーパーアンバサダーとして菊地省三先生を招聘し、褒める、認めるという教育を近年ずっと心がけているので、そういったところで子どもたちが自分に良いところがあるという認識が深まっているのかというところも考えられる。</p>

事務局	<p>資料 1-1の96番のいじめ問題と対策委員会の設置について、あまりできなかつたという評価に関してご質問いただいた。</p> <p>これについては、いじめ問題対策委員会を設置して運営をしたが、この問題事案が発生した段階で、いろいろな方からの評価をいただいた際にこれがあまり機能していなかつたのではないかというようなお話もいただいた。教育委員会としては、すぐに見直し、改善の方向に向けて取組を開始したところで、この時点での評価は、あまり機能していなかつたということで、あまりできなかつたという評価となつた。</p>
委員	<p>育成会の保護者の方たちとお話をするときに、障害がある子どもの教育について、自分たちの頃はまだ初期だったので、障害に対する考え方も今のようではなく、また子育てとか教育の場にどうやって入っていったらいいのかわからず、本当にご苦労されたことをよく聞く。そのことを頭に置きながらこの資料を読んだときに、西脇市の特に障害がある幼児の子育てへの姿勢について、保護者の方がこども園の先生方とお話しをされると思うが、そのときに必ずしも保護者の方が納得しにくいとき、こども園の先生と保護者とが1対1で話し合うというのはとても難しいと思う。そこでこの資料をみると、福祉課もあり、はぴいくサポートセンターもあり、幼保連携課もあり、それぞれが協力し支えると書いてある。</p> <p>これが大体実現できたというところだが、そこから漏れる人が本当にいないかどうかというのを、これからも丁寧に見ていただきたい。子どもを預けておられる身としては、子どもを預けているからこそ、本当はここまでしてほしいとか、あるいはこういうことを言いたいけれども、それを言うと、そのことが子どもに返ってくるのではないかと考える。これはこども園に限らず、小学校でも中学校でも保護者の率直な思いだと思う。自分が言ったことで子どもにマイナスの関係で返ってきたらどうしようという思考は信頼関係の問題でもあると思うが、そんなことがないように、ぜひそういった方々を支えていただきたい。</p> <p>特に同行して一緒に相談に当たっていただけるとか</p>

事務局	<p>あるいはちょっとしたカンファレンスのような会議でできるだけ多くの方が出席されて、いろんな意見を交えてみんなで支えているということがしっかりと伝わるようなそういった施策を今後とも進めていただきたい。</p> <p>例えばお話にあった、はびいくサポートセンターや学校教育課が連携しながら支えているという状況は、皆さんから見れば先ほどおっしゃったような視点もあるということは我々も認識しており、できるだけ相談しやすい体制を心がけながら考えている。今年は、地域子育て相談機関などの事業も始めており、認定こども園でも相談できるなど、できるだけ相談しやすい工夫なども取り入れている。今後とも注意しつつ、相談しやすい体制を取りながら、例えば認定こども園に相談した場合にくい違うところが出てきた場合などでも全体と一緒に連携しながら支えていけるような体制をとっていく。</p>
委員	<p>それを周りの機関が調整してほしい。どちらのいうところが正しいとか、間違っているということはないと思う。しかし、そのお子さんを取り巻く環境ができるだけ今よりも良くなるように、という姿勢で納得度が高まるような関わりをしてもらえると、障害のある子どもを抱えて日々奮闘しておられる保護者の支えになると思うので、よろしくお願ひしたい。</p>
会長	<p>現在こども園の方は医療的ケア児を何人くらい支援しているのか。</p>
事務局	<p>医療的ケア児ということでは、今市内のこども園に就園している子の中ではない。障害のある子、支援のある程度必要な子というのは一定数おられるが、医療的ケアに看護師が日常的に必要な子というのは就園はしていない。就園はしていないが、市内にはいらっしゃる。</p>
会長	<p>そういう方にも、簡単に協力ができるような、頼れるような機関になってほしいと思う。そういう機関が</p>

事務局	<p>あれば、本当に多職種としての連携ではないが、皆で子どもを守っていく、家庭を守っていくそういうシステムを作っていたきたい。</p> <p>はびいくサポートセンターはどれくらい稼働しているのか。事業はどの程度稼働しているのか。</p> <p>1年前に開設して以来、母子保健と児童福祉の具体的な支援を行っている。具体的な活動としては月1回また随時開催の検討会で把握した子どもについて、どのような支援が必要かを検討しながら支援を行っている。また、昨年度から家庭訪問の家事支援事業も始めたので、必要なケースについてはヘルパーの派遣を行い対応している。</p>
委員	<p>今、2歳の子どもがいてMiraieにお世話になっている。今障害のある子どもの話があったが、私の行く時間帯にもよると思うが、Miraieで障害のある子どもに出会ったことはない。そういう方々は日々どう過ごしているのか疑問に思う。</p>
会長	<p>そういう方と触れ合うこともとてもいい勉強の機会になると思うが、そういう実態などを把握されているのか。</p>
事務局	<p>実態数を把握したことはないが、発達に課題があるような子どもも、認定こども園に通ったり、また障害等のサービスでいろいろな支援があるので、そういったところにも通いながら生活されているのだと思う。</p> <p>一つには一見して発達障害がわかりにくいということもあり、気づいていない場合もあると思う。</p>
委員	<p>Miraieやこどもプラザは、車椅子の子どもが遊びやすいようには思えない。フラットにはなっているけれども、なかなか入りづらい人もいるだろうと思う。</p> <p>もっと地域の人と触れ合えたら納得度も上がるのではないかと、また知ってもらうことによって気持ちも楽になったりすることもあるのではないかと思うので、そういう方ももっと集まりやすい場みたいなのがあればいいと思う。</p>

事務局	<p>できるかどうかわからないが、私たちがそういった障害のある子どもと関わっていく中でどのようなところで過ごすとか、そういった視点を持って取り組んでいきたい。</p> <p>＜（仮）西脇市こども計画について＞ 資料 3-1、3-2に基づき、事務局から説明</p>
会長	<p>西脇の子どもだけでなく、日本の子どももそうだと思うが、自分の意見を言うことが非常に不慣れだと思う。子育てで社会に関わる中で自分の意見を出せるようなそんな子どもたちを育ててほしいと常に思っているが、いかがか。</p>
委員	<p>本来、子どもたちには意見を発する権利がある。権利というのは、何かをもらえるものではなくて、持って生まれたものが権利であるというのが子どもの権利条約そもそもの考え方であって、権利条約とこども基本法に則るのであれば、子どもが思っていることを私たち大人がどういうふうに対等に聞いていける場をつくっていけるかという、そちらをまず考える必要があると思う。</p>
会長	<p>また説明があると思うが、こども会議がある。去年参加したが、10歳から18歳くらいの子どもが同時に意見を出し合っている。確かにそれは大切なことなのかもしれないが、それぞれ十分な意見が集まるのかは疑問が残る。10歳は10歳の意見、15歳は15歳の意見というそれぞれの世代別の会議があってもよかったのではないかと思う。</p>
委員	<p>次期計画体系のポイントの5番、新規の基本施策の中に「質の高い教育、保育の提供」とあるが、質の高いとはどういうことか。</p> <p>それとこれは私のお願いだが、例えば、認定こども園は小学校にあがるための教育ではないということ、小学校は中学校のための小学校ではないということ、中学校は高校のための中学校ではないということを改めて考えていただきたい。認定こども園は認定こども</p>

	<p>園に通っている子どもたちの、今そのときの子どもを丸ごと抱えて、それこそ子どもまんなかの考え方で教育していただけたらと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>私も質問させていただきたい。教育はわかるが保育とは何かと思う。保育所を実際に増やすことなのか、保育士のレベルを上げることなのか、といろいろ考えており、市としてどういう考え方があるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>確かに保育の質というのは測れるものではなく、それが高いか低いかと評価するのも難しい。ただ、西脇市としては、保育の質として子どもを大切にし、子どもが本当にそこで楽しんでいるか、子どもが主体的にその活動をしているか、そういうところを大切にしたい遊び込める環境を整えられているかというところで保育の質と見ることもできるので、幼児教育センターとしては、園を訪問させていただきながら、皆さんとお話し合いを行い、より近づくようにしている。</p>
<p>委員</p>	<p>私は大学で保育士の養成をしているので、その立場から言うと、何が質かは難しいところではあるが、先ほどの主体性にかかってくる。</p> <p>子どもたちが思ったり願ったりすることを、自分の力を持って、実現に向かっていける力を養うというのが、今の質の高い保育の根底にある。その中で、従来の何かを教え込むということではなく、保育の中で大事なのは遊びの中で感じ取るということ、これは小学生の中ではあるけれども、小学校からは遊びを通しての教育というのはなかなか言葉としては少なくなっていく中で、いかに小学校に行くまでに遊んでその中で体験とか発見をしていくということを社会的にどうするかという議論がだんだん少なくなっている。そこで、今一度その原点に立ち戻って、子どもの育ちに必要なものを備えていこう、というのがここに書かれている。</p> <p>質の高い保育という、国全体が目指しているのはそういうもので、それを各市町村で実現化していこうというところで西脇市の特色が出てくるというふうに理解できると思う。</p>

会長	そこを踏まえて市としていいものをつくっていただければと思う。
委員	<p>子どもや若者の社会参加とはどういうことを考えているのか。私の町内会で子どものいる家庭は13件あるが、その中で子ども会に入る家庭は5件しかなくほとんど入らない。</p> <p>老人会と子ども会と一緒に遊ぼう、という行事を、今年、老人会が計画したが、子ども会の方が来なかった。お年寄りの方は子どもと接するのが楽しみで、老人会は非常に積極的に参加をしているが、子どもが嫌だという。</p> <p>夏休みのラジオ体操に集まるのも老人会のみになっている。社会参加とあるが、肝心の子どもが参加しないので、町内会で打つ手がない状況である。いい手があれば教えていただきたい。</p>
会長	子どもが少なくなってきたというのも一つあると思うが、子どもたち、家庭が参加しやすいような仕組みなど、どうしたらよくなると思われるか。
委員	参加することが大事と思われている方に負担がかかる。参加することを自分で選べる、自由にできる仕組みがあればいいと思う。
会長	楽しいことがあるというようになればよいだろうが難しい。強制されると嫌がられる。他の委員はいかがか。
委員	楽しいことが多い世の中で、なかなか地元の行事には向かわない。テレビもゲームも遊ぶところもすごく充実し、しかも無料でとか安かったりするのでそこに対抗するのは多分無理だと思う。私の夫はすごく地域愛が深く、そういうところを育むというか、それがすごく大事なんじゃないかと思う。どうやったら地域愛が育まれるのかは難しいが、夫の場合は、地元の行事に参加することで育まれているので参加してもらわないと育めない部分ではある。

委員	<p>子ども会に入っていない親御さんからすれば（子ども会に入って）役をさせられるのが嫌だということがある。役をする者がいないから会を解散するという話になる。</p>
会長	<p>地元愛に関して、私は毎年市内4中学校で出前授業を行って地域の話をしているが、話をする前に必ず将来西脇市に残りたい人に挙手をしてもらう。その際多くても10%くらいで、地元に残りたくないということがわかる。子どもの時代から都会に出たいと思うことはあるが、西脇市に帰ってきて西脇市を何とかしたいと思っている子が少ない。それは親を見てそう思っているのか分からないが、その辺りも手をつける必要があると毎年思う。</p> <p>我々よりは子どもに近い世代なので思うところがあるのではないかと思うがいかがか。</p>
委員	<p>私は今、塾でのアルバイトをしており、小学校から高校の子たちと触れ合う機会が多いが、私が小さい頃は何か楽しいことがあればそこに参加しようということが当たり前だと思っていた。しかし、今の小学校、中学校の子は昔ほど単純じゃないこともあって、何か楽しいからといって参加しようっていう感じの子たちじゃない子が多い気がする。そうなると、例えば老人会の人たちが昔の遊びとかを一緒にやろうと声かけをしても、今の子どもたちは、先ほどの発言にあったように、ゲームやテレビがあるから参加しない。逆に、老人会の人たちから子どもたちのフィールドで一緒に楽しめるのならそれがいいかと思う。一緒に楽しめてこういう世代の人たちと遊ぶ楽しみもあると気づいてくれるならそれはいいことではないか。</p>
会長	<p>西脇こども会議の時に大学生の子が何人か来てくれて上手に子どもたちをリードしていた。子どもと老人を繋ぐ大学生などに来てもらったりして、一緒に遊べるというようなつなぎもあっていいのかと思うし、盛り上がる可能性もある。</p>
委員	<p>この問題を西脇市の課題としてずっと長く皆で取り</p>

組んでいくという覚悟が必要かと思う。主催する側の方、準備される側の方は、共に準備することによってお互いの関係を強めておられると思うので、そこに、もう少し早くから子どもたちも一緒に作る場所からできるようなことを考えていったらいいのではないかということと、高齢者の方々が昔の遊び等を行って、まず自分たちが思いっきり楽しまれたらどうかと思う。特別に何かするというよりは、何かおじいちゃんたち、いつも楽しそうにしているな、という空気を発信していけたらいいのではないかなと思う。

委員

老人会は子どもに負担をかけないようにと思って、全部準備して、この時間に来てほしいということをお母さんに案内している。いろいろやってほしいというところとまたやめると言われかねない。しかし、確かに言われるように準備から入った方がいいかもしれないと感じた。

委員

私の地区の町内会は、子ども会自体は解散しているけれども、育成会というような形で子ども会を卒業した保護者が町の行事を手伝っている。子ども会が盛んだった頃の世代だが、お父さん方が中心となって町内会を盛り上げて活動している。子ども会は入らなくてもいいようなことが、私たちの世代で始まり、今ではほとんど入らず、解散になったというような経緯がある。子ども会をやっていた頃は楽しかったし、子ども会で集まるから地域の人と仲良くなって小学校から中学校までの保護者がみんな顔見知りになって、学校であっても助け合うという形で過ごしていたので、今は寂しい。同じ町の人でも学校で会ったら知らないということは冷たいと思うし、田舎なのに田舎の良さが無いと思う。

少し思ったのは、例えば、新しく始まる事業「はびいく定期便」があるが、それを町内会で実施するようなことはどうだろうか。他所の人が来るのではなく、町内会の手の空いたシニア世代の方が研修に行き、その人たちが町内に住む1歳までの乳児のお母さんを訪ねてコミュニケーションを取っていくなど、そういうちょっとしたことではあるが、また町内であのおば

	<p>あちゃん、いつもお世話になっている人やとか、そういうのにまた少し繋がっていくのではないかな。</p> <p>今からされる取組と現状の課題を見て、今挙げたようなことが今からでも出来る方法かと思う。そういうことが、また新たな身近な繋がりや絆になるのではないかなと思う。</p> <p>町内会で楽しい思いをして年配の方と一緒に過ごしてきたので、つらいと思いながら聞いていた。</p>
<p>委員</p>	<p>今答えられなかったら次回でも構わないが、子どもの権利条約を子どもたちはいつ聞くのか、ということがそもそも気になる。私は児童養護施設の職員として施設で働き、ソーシャルワーカーとして今、大学で教育を行っているが、保育の養成校の学生に聞いても、子どもの権利条約の話をした際に、そんなに大事なのなら、なんで今まで私たちはその権利を聞く機会がなかったんだという話になる。子どもの権利と書いてあるが、子ども当事者視点でいくと、子どもは子ども自身に自分自身の権利があるということにいつ気付くのだろうかということが一つある。それと、子どもの権利条約を日本が批准して今年で30年になるが、そのデータを見るとなんとなく知っているが、結局どういふことかわからないということがデータで出てくることが多い。更に、学校の先生方へのアンケートがあるが、その中で、権利条約は知っているが実際に具体的に学校の中で教えるにとしては、時間がないという話になる。しかし、生徒指導提要の令和4年版の中で見るならば、子どもの権利条約と子ども基本法のことを明記されていて、それに基づいた生徒指導が表記されているが、そうすると学校が忙しいからというのは、あまり現実的な回答ではないかと捉えられる。そもそも子どもの権利条約を子どもたちがいつどうやって知るかということや西脇市はどう考えているのかということやを教えてください。</p>
<p>事務局</p>	<p>社会の教員ではないので、いつということは不明だが、基本的人権を学ぶ中で、子どもの権利条約には触れられると思う。</p> <p>ただ、おっしゃるように子どもたちがその権利をす</p>

	<p>ごく意識しているとかすごく興味を持って知っているとかいう状況になっていないのも事実だと思うが、子どもの権利自体は基本的人権という部分で中学校とか小学校とかで学んでいるのではないかと思う。</p>
会長	<p>子どもの虐待の中でプライベートゾーンを覗かさないということがあるが、それと同じくらい、これは君たちにとってはとても大事な権利なんだということを強く伝えるような授業があってもよいかと思う。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">＜計画の基本理念について＞</p> <p>資料 3-2の22ページに基づき、事務局より説明</p>
会長	<p>この場で意見を求めるのか、メール等で意見を募るのか。</p>
事務局	<p>案内の方に少し書かせていただいていたので、キーワード的なものをお聞かせいただければと思う。もしも今日は無理ということであれば、後日メールなりでお教えいただけたらありがたい。キャッチフレーズの様な形で結構。</p>
委員	<p>資料には第2期の基本理念が書かれているが、第1期もこれと同じものだったのか。</p>
事務局	<p>第2期と同じ方向性のものとなっている。</p>
委員	<p>資料 3-1の次期計画の体系のところも、視点が大人であり、子どもや若者に何かを与える対象という感じになっている。第2期の基本理念も、育てる喜びを感じるのは誰かということと親という大人である。主体や主語が子どもまたは若者になるような形にならないのかということは少し考えた。</p>
会長	<p>順番に意見を願います。</p>
委員	<p>アドボカシーとアドボケイトに関しては子どもの意見を主張するものだが、第3者が子どもの意見を聞いてそれをそのまま代弁するという仕組みは必要だと思う。</p>

	うので、ぜひ考えていただきたい。
委員	同意見で、主語が子どもや若者というのはとてもいいことだと思うし、平和な穏やかな育ちができるような言葉が入ればよい。
委員	具体的な言葉はまだ考えていないが、笑顔があふれるという言葉に全部が集約されているのかと感じた。若者も入れていただきたい。
会長	親も子も笑顔があふれるということか。続いてお願いする。
委員	共に育つ、共感し合いながら一緒に成長していけたらと思う。それについては、地域に住む全ての人が対等のような形であればいい。
委員	若者を入れてもらいたい。
委員	先ほどおっしゃられたように、子どもを主語というよりは子育ても入っていると思うので、みんなでやっ ていこうよ、みたいな方向性なら皆に分かりやすいか と思う。
委員	私は地域愛みたいなことを盛り込んでもらえたらな と考えていたところ。西脇市の大きな課題と感じる。
委員	私も子育てをしながら育ててもらっていると思うこ とは多いので、育て合うとか育ち合うとか、大人から の押し付けではない、ということは感じている。更に 大人は楽しめているかというところで、やはり子ども は大人の背中を見ているので大人が楽しそうだったら そんな楽しい大人になりたいとか、そんな社会がいい なと思うので、大人が楽しめるようなキャッチフレー ズならよい。
委員	私も、具体的にこれというものはないが、今までの お話の中で、色々な問題は男性の家事や子育てへの参 加割合がもっと上がることで解決することもあるので

	<p>はないかと考えている。基本理念の中にそういうものが入ることは難しいかもしれないが、そういう視点を大事にした基本理念だったらよいと思うのと、この建物の名前になっているが、西脇という「オリナス」というイメージがあるので、「オリナス」という言葉が入ってもよいと思う。</p>
委員	<p>私は西脇市によく出てくる「はぐくむ」という言葉が好きで、柔らかくて温かくて、ちょっと未来があってワクワクするなと思うので「はぐくむ」は条例にも入るが、入ればよいと思う。</p>
委員	<p>概念として、競争ではなく、協力、これを何とか入れていただきたい。</p>
会長	<p>私自身は皆さんの意見に反対はないが、アタッチメント、愛着形成というが、今の愛着形成という考え方は子どもが困った時に助けてやることができる感情。この人についていたら困った時に助かるかもしれない、そう繋がることをアタッチメントというらしい。それは親でなくても構わず、パートナーでも近くの方でも構わないが、西脇市民の方と子どもたちがアタッチメントで繋がればよい。アタッチメントという言葉は使わずとも、そういうキャッチフレーズができればよいと考えていた。</p> <p>ご意見があれば事務局にメールを送っていただきたい。以上をもって本日議事を全て終了した。</p>
事務局	<p>最後に資料4に関して、西脇こども会議の開催の案内をさせていただく。</p> <p>次回の会議は8月29日で考えている。本日頂いたご意見を踏まえて基本構想、各基本施策の具体的な取組を議題にしようと考えている。</p> <p>○教育創造部長挨拶 ○閉会</p>
問合せ先	<p>西脇市福祉部こども政策課 電話：0795-22-3111（代）</p>